



現地の大学で実際に授業を受け、ワークショップに参加することで語学や専門分野の意欲が高まりました！

システム理工学部 環境システム学科 2年
田川 堅太さん

参加プログラム

語学研修

グローバルPBL

海外インターンシップ

交換留学プログラム

■公開可否： 可 ・ 不可

派遣先： ドイツ・ミュンヘン工科大学

このプログラムは、卒業のために必要な、「実習科目」と「英語による開講科目」の両方を満たす授業だったこと、このプログラムの数か月前にアメリカへ語学研修へ行っていたため、現地で身につけた語学力、コミュニケーション力が英語を母国語としない国でも通用するのかなど、自分の語学力向上のために受講を決意しました。

滞在期間中は最初の3日間をフライブルクで過ごし、移動の1日を除いて残りの5日間をミュンヘンで過ごしました。フライブルクは環境先進国であるドイツの中でも特に環境政策に力を入れている市であり、市のいたるところに環境保全のための取り組みがなされているものを見つけられました。夜には一緒にこのプログラムに参加したメンバーが各々SDGsに貢献していると思うものを発表し合い、知識の一層の定着ができました。シティーウォークやコージェネレーション設備の見学、UWC (United World College) への訪問を通して、環境保全のために、日本ではどのような政策を取り入れることができるか、また、世界全体ではどのようなことができるかを深く考えることができました。

続いて訪れたミュンヘンではミュンヘン工科大学の授業を受け、最後にはワークショップに参加しました。現地の生徒が積極的に手を挙げ、第二外国語の英語で発言している姿は各々の専門分野への熱意が感じられ圧倒されました。また、ワークショップでは思うように自分の意見を英語で伝えられなかったり、参加しているのに班でどういう意見になっているのか、どういう結論になったのかを理解することができなかつたりと、自分の英語力の乏しさを痛感させられました。

このプログラムに参加して、専門分野への理解が深まることだけでなく、様々な出自の人と意思疎通のツールとしての英語の重要性に気づくことができました。この経験を通して、さらなる語学力の向上を目指していきたいです。